

園だより 5月

子供たち、主に結ばれている者として両親に従いなさい。それは正しいことです。

(エフェソの信徒への手紙6章1節)

園庭の桜が桃色から緑色に変わりました。5月、新緑の季節です。新緑を通して差し込むお日さまの光はより神様の恵みを感じます。その様な光に包まれながら思い思いに幼稚園生活を送る子どもたち。新しい芽吹きのエネルギーと子どもたちの新年度ならではの張りきった想いが益々行き交うことでしょう。

涙あり、緊張感あり、弾けそうな笑顔あり、様々に新年度ならではの子どもたちの心が動いていた4月の幼稚園でした。そのような心をそのままに受けとめつつ、子どもたちにとって新年度の園生活が安心の毎日になるよう保育者たちは心を注ぎ、一人ひとりに寄り添いました。黙々と砂場で穴を掘る年少さん、年長さんや年中さんが作っている砂山作りや川作りに自分のイメージで加わっている年少さんやお部屋で粘土、おもちゃで遊ぶ年少さん。年中組になった喜びになんとか誇らしげに遊ぶ年中さん、もとの年少のお部屋で一時を心穏やかに過ごしている年中さん。一番大きな年長さんになったその役割をしっかりと受けとめながら園庭でもお部屋でも思い思いに遊びを展開している年長さん。それぞれの心と体は活発に動き出していました。その中で、緊張と不安を全身で表している年少さん、それぞれに一つ大きくなったけれど、お部屋が変わり、仲良しのお友だちとクラスが分かれ、先生も変わって、ふとした時々不安げな様子になる年中・長さんがいたことも確かでした。そしてその全てが新年度ならではの子どもたちの大切な想いの時でありました。

それぞれの子どもたちが個々で感じる想い、その想いを個々がどの様に受け止め、動き出すか。その心の動き、それに伴う体の動きこそがこれからの幼稚園生活の広がり、豊かさに繋がっていくのです。その生活を見据えつつ保育者たちは今の環境を整え、細やかに一人ひとりの心に想いを巡らし、時には背中を押しながら、子どもたち自らの成長を支えます。4月もこの様に大切に過ごしてきた二週間余りでした。連休明けての子どもたちが今から楽しみです。新緑の中、恵を感じつつ様々な子どもたちの様子を保護者の皆様と共に見守って参りたいと願います。よろしく願いいたします。

園長 駿河 幸子